

学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 不破高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 平成30年9月25日(火) 13:00~14:30
- 3 開催場所 不破高等学校ガイダンス室
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|---------------|
| 委員 | 竹内 治彦 | 岐阜経済大学教授 |
| | 和田 満 | 垂井町教育委員会教育長 |
| | 中川 敏之 | 関ヶ原町教育委員会教育長 |
| | 原川 拓雄 | 垂井町不破中学校校長 |
| | 北澤みさ子 | 垂井町立宮代保育園園長 |
| | 長谷川妙子 | 関ヶ原町教育委員会教育委員 |
| | 高木 淳一 | 不破高等学校PTA会長 |
| | 中村 美幸 | 地域住民(垂井町) |
| | 高木佐和子 | 地域住民(大垣市) |
| 県教委 | 早野 宏樹 | 学校支援課課長補佐 |
| 学校側 | 内木 晃 | 校長 |
| | 増田 泰志 | 教頭 |
| | 田中 雅之 | 事務長 |
| | 臼井 澄人 | 進路指導主事 |

5 会議の概要

※授業参観(4限目)の後、以下について協議

(1) 平成30年度事業の実施状況

- ① コミュニケーション能力の向上を目指して
 - ・発達障がい等総合支援推進事業
- ② 基礎学力の定着及び学習意欲の向上を目指して
 - ・活性化プログラム研修会(職員研修)
- ③ 地域連携
 - ・ボランティア活動及び地域行事参加
- ④ 中学生や地域への広報、情報発信

(2) 意見交換

- ・園児と不破高校の生徒と意義のある交流をさせてもらっている。高校生の生徒さんは、園児との交流前にしっかりと準備をされ、目的をもって取り組まれている。園児たちも交流をととても喜んでおり、今後もよろしくお願ひしたい。
- ・5、6年前に小学生を運動会に呼んでいただいて、エネルギーが溢れるような運動会であったことを覚えている。また、小学校の校門前を通学路とする高校生が小学生や職員に元気よく挨拶してくれた。そのことを不破高校にお話しすると高校の先生方が小学校まで不破高生を迎えに来てくださり、とても印象に残っている。また、当時の児童と会うことができ、爽やかに挨拶をしてくれて、意欲的に授業に取り組む姿を見て感動し、安心している。

- ・今日初めて授業を見学させていただいた。生徒が授業を受ける態度でダラ～とした様子が少し気になったが、先生方が上手に対応してみえた。ほとんどの生徒は真剣に前向きに向き合っている感じがした。また、いろいろな部活動やボランティア等で頑張っている生徒や先生の中で、働き方改革を意識しながらその中でよくやってみえる。親の立場からも感謝の気持ちと今後もよろしくお願ひしたい。
- ・県の校長会の会報に安福教育長の言葉として「県立学校の場合はいかにして学校の魅力を高め、そして中学生の希望に応えていくかが重要である」と書いてあった。不破高校の活性化協議会に参加し、不破高校の取り組みが教育長の言葉にもあるようによくやっておられるし、成果もしっかり出ていると感じた。そういう中で今回は授業を見学させていただいた感想は、最初に見せていただいた数学の授業では、易しい問題から始め、途中実際にジャンケンをしながらどんなパターンが出てくるかといった大変丁寧な指導をやってみえた。ただ学校パンフレットに書いてある「きめ細やかなサポートができる」ということを考えると、「学習意欲を向上させる」ということであれば、易しい問題からスタートして教員がリードしていくやり方（3人、4人の場合をとばして5人の場合にいった）ではなく、生徒主体で考えさせるやり方（3人の場合は3の3乗、4人の場合は3の4乗、・・・ということをおさえながら、生徒に考えさせて発表させてそこで試行錯誤させて進めていく）というのが大事である。それが基礎学力の向上であったり、苦手科目が苦手でなくなるとか、質問しやすいとか、きっと個人追求していけばそれがきめ細かい指導になるのではないか。また安福教育長は「これからは小中高特の全ての壁を取り除いて勉強していただきたい」と書いておられるが、こういった授業を私たちが見せていただいて、お互いが授業で学んでいくことが大事であると考えます。
- ・垂井町の地域住民代表ということで案内をいただいている、私は宮代で生まれ府中に在住している。今から50年前にここの学校を卒業させていただいたOGでもある。内側から門を見ても懐かしいし、台風で倒れた桜の木の下で卒業の頃写真を撮った覚えがある。理科棟へ移る細い通路も昔はこんな所だったと大変懐かしく思った。今日の授業は、どちらかという割と特別な感じの少人数のところが多かったようだが、いつもはどうなのか？
- ・高校ではどのクラスもあのくらいの人数なのか？
- ・発達障がい等総合支援推進事業では、発達障がいの子たちだけが集まったクラスがあるのか？
- ・発達障がいをもった生徒にとっては非常に有難いものであると思います。これまで小・中学校で特別支援を受けていた子どもが卒業して高校で困ることがあったのですが、こういう形で個性のある子どもたちが生き生きと学べる機会があるというのは嬉しいことだと思いました。
- ・不破高校として地域で活躍しているところを地域に根差した不破高校であってほしい。
- ・先日、小学校で午前が小学校の運動会、午後が地区の運動会が行われ、そこで不破高校の生徒がボランティアで参加していた。中学校の生徒も兄弟関係でボランティアに参加しているが、小学生たちや地域の人と一緒にやらせていただいて、地域と共に歩んでいけるような状況になると良いと感じた。また、夏休みには「サンサン夏祭り」があり、中学生で教室に入っている姿を見ました。いろいろなところで交流してもらい中学生がお世話になっている。現在、中学校と不破高校のつながりは「個別支援教室のモデル事業」で一緒にさせていただいております。中学校では、今日のような全体の授業（母学級）から7～8人の生徒を抜き出した授業（少人数）を行い、更にその中から学びにくさや困り感をもった生徒を1～2人取り出して授業（取り出し）を行っている。1年生6クラスの内5クラスは1～2人取り出して授業（取り出し）を行っている。1クラスについては取り出す対象の生徒がいらないため全体で授業を行っている。取り出す生徒については、個別に話し合い、生徒の希望があれば保護者からも同意をもらって実施している。中学生ではなかなか自分ができるできないということを言い出すことが難しいが、本校では生徒が素直に「やりたい」と言って喜んで授業に参加している。この前も県から見学があったが、生徒はどの

先生が来ても気にせず、自分の良さをアピールすることができていた。高校でも少人数で指導していただくことは、生徒にとって学校で学べる安心感につながると感じた。中学校の生徒が不破高校でそのままというわけにはいかないが、こういう連携をとって子どもたちの意識が分かってきていると思う。

・ちょうど10年前に中学校の校長として、またH28にも活性化協議会評議委員として不破高校に来ているが、不破高校の先生方が少人数指導を大事にされ、子どもたちに粘り強く指導されている成果が出てきていると思った。陽の当たらない子どもに陽を当ててもらおうと、とりわけ印象的だったのが、不登校であった生徒が生徒会の役員をして卒業した。本当に感動しましたし、この学校の有り難さというものが地元の校長として感じた。更に、以下のことを紹介したい。

1 保幼・小中・高18までの連携協議会が発足し、4月から垂井町の学校としての共通な次の3つの取り組みを定めた。挨拶（コミュニケーションスキル）、読書、早寝早起き朝ご飯（用は睡眠を大事にしよう）。今後はPRと成果の検証をしていきたい。

2 「不破高校に対して地域の期待が大きい」と肌で感じている。例えば、「歴史ガイド、垂井ピアでのお菓子の販売、垂井町の学校教育公表会における自然科学部の発表等において不破高校の生徒がいないと地域の活動ができない」という声を聞く。

また、モデル校としての取組「自己探求（発達障がい支援研究指定事業）」を地域にも教えていただきたい。とりわけ中学校のモデル校指定は2年間（今年）で終わるので、教育委員会から県教育委員会に継続の要望をしたい。高校でも継続していただいて、きめ細かな教育に専門性を加味した少人数指導が発展していくと良い。垂井町では、不破高校と地元の中学校、小学校が指定となり皆で考えていこうとしている。地元の教育委員会でも応援していく。

・本日の授業を見学させてもらって分かったことは、まず少人数があること。そして学校が荒れていないということだ。学校特色の売りになるものとして、少人数で教育してどこを目指すのかを考えたときに、発達障がい等総合支援推進事業をやることがその目指すところではなく、発達障がい等総合支援推進事業をやることが学校の売りにはならない。この学校にどういった子たちが進学してきて、どのように期待されるのかを考えていくと、極端な考え方もかもしれないが、不破郡の子が普通に不破高校へ進学することが理想である。そのときにここでの教育をどうしていくか、少人数教育をどうしていくかが課題である。今は全体的に荒れていなくて、どちらかというと引っ込み思案、自己評価が低いし、あまり外に向かって表出しようとしにくい子が多いので、標準的な生徒たちの特色をどう引き出すか、活気があるとよい。次に、学校運営協議会が従前の学校評議員会とあまり変わらないので、学校運営協議会の在り方を次回までに考える必要がある。

6 会議のまとめ

・県立高校ではあるが、不破郡内の学校でもあるので、地域の方々・外部の方々のご意見を取り入れながら学校運営、教育課程作り等に取り組んでいく。そういったことを踏まえて第3回目では次年度に向けたテーマを用意していきたい。